

「エラスムス派遣提案型プログラム参加報告書」

京都大学文学研究科2年(田中凌)

● 学習成果およびプログラム内容

今回の派遣での主な活動内容は、I) 修士論文の執筆および博士課程の研究計画執筆、II) Yale-NUS Collegeでの授業への参加、III) Yale-NUS Collegeで8月24日から27日にかけて開催された、“A Symposium on Paradox and Contradiction in Chinese Philosophy”へのオブザーバーとしての参加、の三点である。

I) 派遣者の修士論文のテーマはWilfrid Sellarsという哲学者に関する研究である。今回の派遣では、Jay L Garfield教授(National University of Singapore, Yale-NUS College)の指導のもと、修士論文の執筆を進めた。教授は現在仏教哲学の研究者として有名であるが、哲学的なバックグラウンドは派遣者の研究分野と一致しており、過去にSellarsに関する重要な論文も著している。今回の派遣では、週に一度、30分から1時間ほどのチュートリアルを教授にさせていただくことで、修士論文の執筆を進めた。成果として、細かい点の修正を残して、修士論文の大半を完成させた。また、派遣時期の後半には、博士課程での研究計画についての指導を受けた。文献収集と分野についてのディスカッションの作業を中心としながら、博士課程での研究のトピックを、「志向性と哲学的自然主義」を方向性とするものとして固めた。このテーマは、修士論文における研究テーマからの自然な発展である。

II) Garfield教授による、David Humeの*Treatises of Human Nature* 講読セミナーに参加した。この授業はYale-NUS Collegeで行われ、参加者は10人以下の小規模なものであった。授業は事前のリーディングを元にしたディスカッションを主体としたものであった。少人数であることもあり、英語でのディスカッション能力の向上を図ることができた。

III) このシンポジウムおよびワークショップのテーマは中国哲学におけるパラドックスおよび矛盾についてのものであった。24日から26日にかけて中国哲学およびその隣接分野を専門とする研究者たちによるディスカッションが行われ、27日のシンポジウムはYale-NUS Collegeの生徒および一般聴衆に向けて公開された。登壇者にはGarfield教授および京都大学における指導教官の出口康夫准教授が含まれており、派遣者はこのワークショップおよびシンポジウムにオブザーバーとして参加し、また運営にも協力した。仏教哲学を分析哲学的手法でアプローチするという研究における、最前線とも言える現場に参加できたことは意義深い経験となった。

● 海外での経験

シンガポールでは公用語に英語が含まれており、また大学での教育はほとんど英語で行われているため、申請者が言語の面で困難を感じることは少なかった。また、同大学への派遣は昨年度に続いて今回で2回目であることもあり、人間関係はある程度確立しており、また現地の制度慣習にも慣れていたため、到着直後からそれほどトラブルもなくスムーズに研究に勤しむ事ができた。

派遣者は滞在中シンガポール国立大学哲学科に所属していたが、同研究科の院生や教員と、普段から自然な交流を持つことができた。特に院生とは、食事会などに招待される機会にも恵まれ、研究またその他の話題についても話をすることができた。院生はアジア哲学を専門とする者が多かったが、一方で政治哲学の研究者の多さも目についた。派遣者の体感では政治哲学への興味が日本よりも幾分強いように思い、シンガポールという国の情勢と何らかの関係があるようにも感じられた。

また、シンガポールという国では英語が公用語に含まれ、さらに移民も多いということもあってか、人々は総じて国外からの訪問者にも、また国外への移住者にも比較的無頓着であるように感じた。特に大学の院生、教員はシンガポール出身者ではないことも多く、初対面の人同士の会話に「シンガポールにはどのくらい滞在するのか」というものが多いことには、日本との国柄の違いを感じた。仕事や研究の機会があれば積極的に海外へ出向くという姿勢は、個人的には見習うべきものであると感じた。

● 進路への影響

今回の派遣を経験して、博士課程やそれ以降の研究について、研究環境を日本国内だけに限定するのではなく、機会があれば積極的に海外の環境へ身をおくことの重要性について、改めて認識させられた。単に日本国外に出ることだけに意義があるのではなく、研究を遂行するにあたっては日本国外の研究環境に身をおくこともごく自然と選択肢に含まれてくると思われる。当然そのためには語学能力、研究能力ともに実力が伴わなければならないが、今回の派遣はそのような力を向上させる意味で実りあるものであった。